令和元年度　日野市立七生緑小学校　授業創造プラン

◆児童の実態（「東京都　学力向上を図るための調査」、「全国　学力・学習状況調査」、「教研式標準学力調査　CRT」の結果より）

- 全国平均と同程度の学力は身に付いている。
- どの教科でも、東京都平均、全国平均と比較して無回答率の高さが目立つ。
- 全国と比較して、中間より少し下の点数の児童が多い傾向がある。

◆本校の学力･学習状況についての課題

問題の意味を的確に捉えたり、発展的に考えたりすることが苦手な児童が多い。

➡学習したことを応用して問題に挑戦したり、粘り強く取り組んだりすることができる児童を育むための授業改善が必要である。

【授業改善の具体的な方策】

全教科において、①　児童が興味・関心をもてるような課題の設定

②　児童が協力して課題を解決することができる活動の設定

③　多面的・多角的な考えを共有し、自らの考えを広げることができる場の設定　　を中心とした授業改善を図る。

国語科

①・「○○日記」や「心情曲線」など児童が表現しやすいまとめ方の提示

②・児童から出た疑問をもとに全体で学習課題を考えさせる活動

・ペアやグループで互いの考えを交流させる活動

③・様々な立場での話し合い活動

・新聞づくりや音読発表会など多様な言語活動

〈各学年の取り組み〉

１学年　読み書きの機会を増やし、平仮名、片仮名、漢字を正確に書けるようにする。

２学年　文章を書く機会を増やし、句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使えるようにする。

３学年　国語辞典で分からない言葉の意味を調べる。

４学年　話す・聞く活動では、「間をとる」「資料の提示」「抑揚をつける」などの視点をもたせてから取り組ませる。

５学年　ペアで挿絵や写真を使って説明し合う活動を通して、物語や説明文の内容を正しく理解する。

６学年　自分の考えが正しく伝わるように、文章構成を考えて書く。

社会科

①・実物の提示

・児童の生活に密着した課題の提示

・パソコンや映像などの活用

②・児童が疑問に感じたことを課題として解決していく調べ学習

・グループで新聞にまとめていく活動

③・調べたことをグループごとに模造紙等にまとめ発表する活動

・ゲストティーチャーを招いての出前授業の実施

〈各学年の取り組み〉

３学年　直接見学をしたり、話を聞いたりして自分の生活との関わりに気付く。

４学年　身の回りの消防や水道の施設などから学習につなげることで、実体験と結び付けた学習にする。

５学年　稲作体験や社会科見学を通して、調べたことやわかったことを分かりやすく発表する。

６学年　学習したことを基に、友達と考えを伝え合ったり自分の考えを深めたりする。

算数科

①・条件不足の問題・条件過多の問題の提示

・児童の生活に身近な問題場面の設定

②・ある児童が書いた式の意味を他の児童が説明する活動

・具体物の操作

・あえて誤答を扱い児童にその理由を説明させる活動

③・数を変えたらどうなるかを考える活動

・公式や言語による一般化の活動

・応用問題や発展的な問題

〈各学年の取り組み〉

１学年　具体物の操作を取り入れ、課題把握を丁寧に行う。

２学年　場面絵や具体物を取り入れ、課題把握を丁寧に行う。

３学年　朝学習を活用し、既習事項の定着を図る。

４学年　考え方を共有する機会を授業の中で増やす。

５学年　友達の考えを他の児童に説明させることによって、理解を深める。

６学年　習熟度別の学習で、コースに応じた問題に取り組ませる。

理科

①・身近な事象や生活経験・既有知識と関連付けて提示

・疑問がもてるような事象提示

②・『予想や仮説、計画を立てる場面』と『観察、実験の整理、考察、結論の場面』で自分の考えをもって話し合い活動を行わせること

③・条件を変えるとどうなるかを考える活動

・事象と事象を比較して差異点や共通点を見つける活動

〈各学年の取り組み〉

３学年　何のために観察や実験を行うのかを明確にする。

４学年　実験の目的を明確にし、そのために必要な手順を考えることで、理解を深めさせる。

５学年　観察や実験を行う際に、条件を整えることを意識し、結果に対して自分なりの考えをもつ。

６学年　身近な事象と関連付けて考え、実験を通して得たことを、さらに生活に戻していく。

生活科･総合的な学習の時間

①・地域マップ「七生フィールド」を活用した教材選定と実地踏査

・学習対象との「出あい」の時間を十分にとること

②・児童が自ら課題解決できるような「計画⇒実行⇒判断」のプロセスを経た学習過程

・児童相互で共同（協働）的に課題解決ができるような課題別のグルーピングの設定

③・七生特別支援学校の児童との交流をとおして、互いを尊重しようとする心情の涵養

・児童自身の力で交流会を企画するなど学んだことを「活かす」学習活動

〈各学年の取り組み〉

１学年　自然や人に関心をもってふれ合う経験を増やす。

２学年　地域の良さや季節による自然の変化、地域の人々の様子などに気付けるような学習活動を行う。

３学年　地域に愛着をもち、自ら調べていく気持ちを育てる。

４学年　ゲストティーチャーや体験学習で本物に触れさせる。

５学年　交流会を通して、相手を理解し、豊かな心を育む。

６学年　地域のよさを考え、発信することで、地域を大切にする気持ちを育む。

音楽科

①・「リズム」「音の出し方」「強弱」などの音楽の要素を課題の中に入れ、何をどのように活動するか、見通しをもたせる課題提示

・45 分で学習内容が身に付き、「できた」「わかった」と児童が実感できる課題設定

②・歌唱、器楽、創作の活動において、パートやアンサンブルで音やリズムを合わせたり、表現を工夫したりする活動

③・鑑賞の活動において、自分の感じ取ったことや聴き取ったことを友達と交流し合う場の設定

〈各学年の取り組み〉

１学年　拍の流れやリズムにのった楽しい活動

２学年　４～５名グループ合奏や聴き合う活動

３学年　どのように表現したいか思いをもたせる場を設定し、思考力判断力を培う。

４学年　思いや意図を表現するための歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。

５学年　表現と鑑賞の一体化を図る。自分の考えが書けるようワークシートを工夫する。

６学年　思いや意図をもって友達と関わる中で、表現の技能を高めさせる。

図画工作科

①・身近な材料や道具に触れる機会を多くもち、実生活に生かすことのできる活動の設定

・やってみたいと思う材料や表現方法を取り入れた活動の設定

②・共同作品の制作や造形遊びなどグループで活動できる場の設定

③・鑑賞の活動を通して、感じたこと考えたことを共有できる場の設定

〈各学年の取り組み〉

１学年　造形的な色や形の感覚を養うために身近な材料や用具に慣れ親しむ場を設定する。

２学年　身近な材料や用具に慣れ親しみ、それを使った表現の仕方を経験する場を設定する。

３学年　様々な用具や表現方法を経験し、思いを広げ、色や形を通して表現する場をつくる。

４学年　様々な用具や表現方法を経験し、思いを広げ、色や形を通して表現する場をつくる。

５学年　自分の思いをもち、表現の意図を考えながら取り組めるようワークシートを工夫する。

６学年　自分の思いをもち、表現の意図、用途を考えながら取り組めるようワークシートを工夫する。

家庭科

①・実生活に生かすことのできる製作や実習などの活動の設定

②・製作や実習の場面でうまくいかない実例を取り上げ、その理由を考え説明させる活動の設定

③・生活の中で体験したことや調べたことをまとめ、発表し合い、生活に対する見方や考え方を広げたり、深めたりする活動の設定

〈各学年の取り組み〉

５学年　作業過程を確認できるように板書を工夫し、各過程において段階見本を提示する。

１人１人が確実に体験でき、活動の喜びを味わうことができるように教材教具を整える。

６学年　基礎基本の技能の定着を図るための明確なめあてを設定する。

グループワークで児童相互の交流を盛んにし、互いの良さを再認識させ、児童１人１人の自信につなげる。

体育科

①・少し頑張ればうまくできる運動の提示

・生活場面でなじみのある運動の場の設定

②・つまずきを協同的に解決する力を養うために、友達の動きについて考える活動の設定

③・運動に対する見方や考え方を広げたり深めたりするため、運動を見せ合う場面の設定

〈各学年の取り組み〉

１学年　友達と一緒に運動する場面を設定し、楽しみながら多様な動きを経験させる。

２学年　友達と教え合う場面を設定し、最後まであきらめずに取り組ませる。

３学年　友達と教え合いながら簡単な動きを繰り返し行なうことで、できたという実感をもたせる。

４学年　友達の良い動きを見つけ、自分の運動に取り入れさせる。

５学年　友達とアドバイスをしあう活動を通して、主体的に運動に取り組ませる。

６学年　友達と動きを伝え合うことで、様々な運動を習熟させる。

外国語活動

①・授業へ参加しやすい雰囲気を作るために授業の最初にクイズやゲームなどの簡単なアクティビティの実施

②・相手意識をもって取り組むことができるような少人数でのコミュニケーション活動（ペアトークやスモールトーク等）

③・ALT の外国での話を聞いたり、児童の好きな色、食べ物などのインタビュー内容を共有したりして、個々の考えや価値観にふれさせること

〈各学年の取り組み〉

３学年　簡単なアクティビティを充実させコミュニケーションを取ることと外国語の楽しさを感じさせる。

４学年　ペアでのやり取りの時間を多くもち、英語を口にすることの楽しさを感じさせる。

５学年　ALT とのコミュニケーションの中で、外国の文化に触れ、日本との違いに気付かせる。

６学年　2～4 人のグループでのコミュニケーション活動を中心に、ALT を活用しながら、日本の良さを外国の人に伝えることができるようにする。

特別の教科　道徳

①・身近な話題として考えやすくするための導入の工夫

②・座席をコの字体型にしたり、全員が教室の中心を向いた形にしたりするなどたくさんの意見が出やすい環境づくり

③・個々の意見が一目で分かるよう反対意見や賛成意見が出しやすい環境づくり

〈各学年の取り組み〉

１学年　どのような考えも安心して発言できる雰囲気を作る。

２学年　多様な意見を認め合える雰囲気を作る。

３学年　互いの考えを認め合うために、たくさんの意見を出させる。

４学年　主題について多面的に考えさせるために、自分の考えと比べながら友達の考えを聞く。

５学年　互いの考えを認め合うために、友達の多様な考え方にふれさせる。

６学年　様々な立場を理解し、尊重する態度を育てるために、友達と考えを伝え合う。